

56回全国合研 つながり、ふみだし、つくりだそう すべての子どもの笑顔と平和のために

かたんなっせ

2024.7.29 第3号

第56回全国保育団体合同研究集会 熊本実行委員会

講座 午後の部

ゼロ・1・2歳児とつくる心地よいくらし 小川由紀子さん

「ひとりぼっちの保護者をつくらない」ということも大事な保育者の仕事だということ。「かみつき」の対策としてもゼロ・1・2歳児の心地よいくらしをつくるために保護者同士をつなぐことが大事ということ 納得の学びとなりました。今日はわかりやすく教えて頂きありがとうございました。(熊本)しーちゃんさん

講座はとても学ぶことが多く、これやっているな〜と反省することもありました。今回学んだことで明日からの保育に役立てたいと思います。今ゼロ歳児の担任です。この講座を受けたことでいっぱい甘えさせて、いっぱい抱っこして子どもの中の大好きな先生になりたいと思いました。子どもたちがたくさん笑顔になれる環境をつくっていきたくです！ありがとうございました。(広島)東正子さん



乳児期のおそびと集団づくり 服部敬子さん

集団生活にとても悩んでいて、どうすればと毎日頭を抱えておりましたが、今回、たくさんの方の提案を聞いたり、保育者の方々とお話ししてとても励みになったり、勉強になりました！本当に参加してよかったです！明日からまた子どもたちと過ごす日々がより楽しみになりました。ありがとうございました！(熊本)永田さん

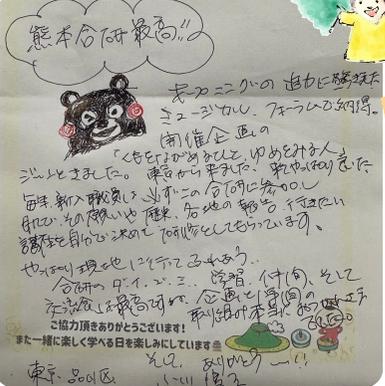


服部先生のお話をきかせてもらいました。実践もふまえた話が、今の保育園の子どもたちとの日々のくらしをおもいうかべながら、きかせてもらいました。今の自分の悩みや保育の中での迷いがあったのですが、「こうしたらいいのかな?」だったり同じ、保育園の先生とすぐに話をしたい!など思いがあふれてきました!とてもいい時間になりました。ありがとうございました!(京都) るみさん

心もからだもはずみだす あそびのステージ ただじゅんさん

26年ぶりの合研!! 3歳だった娘夫婦ともうすぐ生まれる子をカウントすると4人の孫と参加しました! 今の保育園の先生と娘の保育園の先生と逢えて時を越え参加できて嬉しかった。子ども参加の実技があつて本当に良かった。(福岡)白石美帆さん

子どもと一緒に参加しました。子どもがとっても喜んでたことが一番嬉しかったです。保育のネタもたくさんいただきました!ありがとうございました!(熊本)田中さん



保育園の「食」を考える 離乳食から食育まで 小野友紀さん

栄養士としての参加であったので、保育園の「食」を考えるという講義があったことがとても嬉しかったです。また、日々変わる離乳食を実際に同じように園で実施することは難しい、園で大事にしていることを守りながらどこまで実際に園で取り入れるかも難しいですが、離乳食のお話が聞いて良かったです。離乳食のお話は定期的に聞きたいし、実践報告など、他の園ではどうしているなどのことも聞きたい!と思います。(大阪)竹ノ内さん

食事に関する事故が起こり、安全面への意識が高くなり、子どもたちの経験不足が見られます。食育活動も身近なことから、大人が関わり、今を生きる子ども一人ひとりの食事への意識が高まるように働きかけたいと思います。ありがとうございました。(佐賀)兵働さん



保護者と保育者、共に子どもを育てるって? 五十嵐元子さん

保護者、保育者それぞれの「どのような関係でありたい?」を考え、交流をしたことによって今後の保護者対応の見直し、接し方を考えるいい機会になりました。グループワークは苦手だけど、自分の考えが他の方と同じであったり、自分の考えをより考えることが出来て良かったです。聴き取りやすく学びになりました。ありがとうございました。(大阪府)



午後の眠りを誘う時間に「考える」ことで眠さが吹きとびました(笑) 保護者との関係に難しさを感じており、この講座を選択しました。もっともっと保護者の内側に寄り添い保護者、子、保育者が共に育ち合える保育を目指したいと思いました。(熊本)五十嵐さん

たくさんのご感想、ご意見本当にありがとうございました! 掲載できない分は4号にも掲載させていただきます!お楽しみに!



文化企画

語りで楽しむ 熊本のあぎゃん話 こぎゃん話 寿咲亜似さん



肥後の歴史物語と民話の会「語り座」で代表をされている寿咲さん、標準語と熊本弁を交えたわかりやすい口調でいつも私たちも楽しませていただいています。熊本には沢山の民話が残されています。その中から、選りすぐりの3つの話①宇土市の名物お菓子のお話「小袖餅」②熊本城の法華坂に残る重箱婆という妖怪伝説「法華坂の重箱ばばあ」③「ガワツパの手紙」を語られました。熊本にはカップパ伝説が数多く残っていて、カップ発症の地と言われるパルシャからのカップ伝来の碑まであるそうです。それぞれ毛色の異なるお話で物語に引き込まれました。



記念講演

共に生きるとは何か 紛争地、難民、家族の声から考える平和 安田菜津紀さん



熊本地震の後、何度も熊本に足を運んでくださった安田さん、認定NPO法人の副代表で、フォトジャーナリストでもあります。世界で続く紛争や軍事侵攻によって、故郷を追われる人々、日本国内にも、様々なルーツを持つ人々へのヘイトスピーチ、ヘイトクライム命の危険から逃れられない人もいるという現実。そんな社会の中「共に生きるとは何か」を考える上で、人々の心の中にある「差別」をどう取り除くかが大事になるというお話でした。国と国という大きな問題だけでなく、私たちの暮らしの中で出会う、身近な人々の中の無意識の偏見や思い込みによって生まれる小さな差別。そこを少しでも無くしてしていくことが、平和への道しるべとなるという自分の思考や行動を振り替えられる、この大会の最後にふさわしい内容でした。



※来年は群馬です!!!

2025年8月2・3・4日

高林実行委員長から熊倉実行委員長に熊本の実行委員Tシャツが渡されて次回開催地、群馬のみなさんへのパトタッチが行われました。群馬の魅力は裏面に!!! 皆さんで群馬にいきましょうね!!!

次回実行委員長です



第56回全国保育団体合同研究集会in熊本の3日間、いかがだったでしょうか。熊本で初めての全国合研に、実行委員長はじめ熊本の保育仲間が手をつなぎ、これまで手探りで準備を進めてきました。開催までの期間やこの3日間で、多くの保育仲間に出会えたこと、語りあえたこと(かたんなっせ)は、私たち開催地実行委員にとっても、かけがえのない素晴らしい経験となりました。また明日から、すべての子どもたちの笑顔と平和のためにつながり、ふみだしていきましょう。

この速報は「理想科学オルフィス」で印刷しております